

稲・大豆作情報（N0.9）

1. 水稲作況情報田の生育概況（8月27日現在）

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	SPAD	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/15 18.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	出穂期 8月16日 (平年より1日遅い)				夢しずくは、現在糊熟期 となっている。さがびよ りの茎数は、平年並みと なり、まもなく出穂期を 迎える。
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 18.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	96.8 95.1 (102)	412 428 (96)	14.9 15.2 (-0.3)	33.9 33.4	
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/27 18.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	70.0 78.9 (89)	538 472 (106)	15.3 15.7 (-0.4)	35.0 40.3	

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稲。

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

○今後の水管理

- ・夢しずくは、糊熟期をむかえており、根の活力維持のため「間断灌水」とする。出穂期が平年よりも1日遅いが、気温が高く推移しているため、成熟期は平年より早まる見込みである。
- ・さがびより、ヒヨクモチは現在、稲が最も水を必要とする時期（穂ばらみ期）にあたるため、穂揃い期頃までは浅水管理を行い、「湛水状態」を保つようにする。
- ・中干しが不十分な圃場は、地耐力を高めるため、穂揃い後に間断灌水の断水期間を少し長めに行うことで徐々に地固めを行う。ただし、土が白乾しないように注意し、絶えず黒乾状態を保つようにする。

○病害虫の発生状況

- ・いもち病の発生は、やや少ない。病斑が多い圃場は、必ず「穂ばらみ後期」（出穂3～5日前）を中心に防除を行う。
- ・ウンカ類の発生は、平年よりやや少ない状況である。ウンカは株元に生息しているため、防除の際は湛水するとともに株元まで薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。発生予察によると現在（8月26～30日）が、防除適期である。
- ・斑点米カメムシ類は、山麓部では乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底する。例年被害が多い地域では、出穂後5日と乳熟期の2回の防除が効果的である。農薬の散布は、カメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。各品種、出穂期間近となっているため草刈りは実施しない。
- ・紋枯病が初発段階である。吹き寄せしていた場所で発生しやすいため、圃場の状況を確認し、ダブルカットバリダトレボン（穂揃い期まで）、ワイドナーエース（収穫14日前まで）等で防除を行う。

3. 大豆管理

○生育状況 7月中旬に播種したものについては、8月24日頃に開花期となっている。

○病害虫 ハスモンヨトウについては、平年よりやや多い発生となっている。現在、白変葉が見られ始めているため、圃場の状況を確認しながら防除を実施する。

○雑草防除 ホオズキの発生量が多い場合は、大豆の生育を抑制する可能性が高く、次年度以降の発生源となる可能性もあるため、抜き取りを実施する。

また、アサガオ類についても繁殖力が強く、効果の高い除草剤も無いため、1本でも見つけ次第除去し、圃場外の除草も徹底する。

30年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

